

学びの風便り

リーディングスクール通信 12 R5.11.15

発行：松本市教育委員会 教育研修センター

第2回 リーディングスクール・ラボ

11月2日(木) 第2回リーディングスクール・ラボが教育文化センターを会場に開催されました。当日は、リーディングスクール、パイオニアスクールをはじめ、松本市内外の一般の学校から、約50名が会場に参集、さらにオンラインで約30名、合計約80名が参加されました。前半は、3つの分断会に分かれて各実践校の発表を聴き、質疑・協議を行いました。また、後半にはリーディングスクール・アドバイザーの岩瀬直樹先生(軽井沢風越学園校長)から「探究の学びから生まれるもの」というテーマで講演をいただきました。

松本市の学校の「シンカ」を実感 ～実践校の歩みに学び合う～

前半の協議では、各学校から、これまでの半年の歩みの中で取り組まれた挑戦、それにまつわるエピソード、現時点での手応えや、今後の見通しなどが発表されました。いずれも、具体的な先生方の様子、子どもの姿等を交え、新たな学びの創造への挑戦の足跡を生き活きと伝えていただきました。各会場では、参加者の皆さんが真剣なまなざしで発表を受け止め、熱心な質疑・協議をいただきました。



〈参加者のみなさんの感想から〉

- ・どの学校も「すごいことに取り組んでいるんだな」と感じました。そして、本校で同じように実践していくことはできるのだろうか、とも思いました。子どもを育てるために教師も育っていける、そして子どもの姿で語れるように、上手くいかなかったことが語れるようにしていきたいです。
- ・どの学校の発表についても、児童の主体的に取り組むことのできる学習をいかにすすめていくか、とても意欲的で、発表をしている先生方は自信を持って、しかも楽しげな雰囲気さえ漂わせて発表していることがとても印象に残りました。大前提であると思うのですが、教職員が自ら学んでいく、学び続けて行くことの大事さを痛感しました。
- ・本校でも自由進度学習の部会を立ち上げたので、寿・筑摩小学校での自由進度学習の様子を知ることができ、どの学校の発表においても、やはり子どものどんな姿を目指しているのかという願いを、子どもに関わる全ての先生が共有して学校全体で向かっていくことが大切なのだと思えて感じた。

「探究的な学びから生まれるもの」 軽井沢風越学園 岩瀬直樹先生のご講演

冒頭で「驚いた。すごいことが起き始めている」「これだけの数の学校が、探究、自由進度、教師の学び、職員集団作り等が実践レベルで当たり前で語れている」「今後、うまくいかなさ、悩みが共有されるようになるとなおい」と、岩瀬先生から前半の協議への講評をいただき、講演がスタートしました。



「探究の学び」を核としたカリキュラムの中で学ぶ風越学園の子どもたちの姿を紹介いただきながら、『探究心が動く、学習者としての感覚』を子どもと共有すること、『問い』が生まれるためには共通体験(アンカーイベント)が大切。徹底的な個への足場かけを」といった、探究的な学びを育む教師の支援の要所を示唆いただきました。また、「自分の学びを自分で創る『自律性』」「スキルを獲得することによる『自己有能感』」「周囲の人とのつながる『関係性』」等、探究の学びによって育まれる資質・能力を示していただきました。

ワクワク・ドキドキがやむことのない1時間のお話の中で、私たちの「探究的な学び」のイメージ、学力観、そして、実践への意欲を深めていただきました。(次ページへ続く)

〈参加者のみなさんの感想から〉(岩瀬先生講演会)

- ・岩瀬先生がおっしゃっていた「問いは作り出すものではなく、生まれるもの」という言葉を大切に、授業の中で、少しでも心が動く時間を作っていきたいと思いました。私自身の「ワクワク」と生徒の「ワクワク」が一致することがなかなか難しいのですが、専門教科の面白さを伝えていきたいと感じた時間でした。ありがとうございました。
- ・9年間を見据えて、共通のテーマで様々な体験をすることの中から、個別の学びへとつなげていく風越学園の学びは、まさに、本校でも参考にしたいことであった。子どもたちの関心をどう始動させ深めていくのかを、先生方が教材研究し、議論し、子どもたちにおろしている様子がよくわかり、とても参考になった。…「先生の変容は、子どもたちの変容につながる」という言葉を本校でも実践できるよう、考えていきたいと感じた。
- ・「探究の学び」の実践をわかりやすく教えていただきました。子ども達が動きたくなる、やりたくなるようにするための教師の準備、引き出しの多さの大切さ、それを一人で引き受けるのではなく、チームで考えていくことも重要ということを変更して学びました。決して新しいことではなく、今まで私たちがやってきた取り組みであることにも気づき、自信を持って日々子どもと過ごしていきたいと思いました。

リーディングスクール授業公開続く！

11月に入り、リーディングスクール（パイオニア校）の授業公開が続いています。

(8日：中山小 10日：筑摩小、開智小 20日：寿小 24日：田川小)

いくつもの学校が、ともに学びを語る仲間を求めて、学校を開いていただいていることに敬意を表するとともに、学校を越えて学び合う機運を高めていただいていることを嬉しく思うところです。

ここでは、すでに公開が実施された中山小、筑摩小の公開授業の様子をご紹介します。

リモートで研究授業！ 中山小学校 11/8

授業学級の4年生は総合的な学習で民話「泉小太郎」の劇づくりに取り組み、10月末に地域の皆さんの前で初めて公演しました。公開当日は、その振り返りの場面を予定、子どもたちも楽しみにしていました。

ところがその直前の週末、担任の先生が感染症に。公開授業の延期も検討しましたが、子どもたちは「振り返りをしたい！」とやる気満々。担任の先生も「リモートでぜひ！」ということで、前代未聞の「リモート授業公開」にチャレンジすることとなりました。

授業では、子どもたちはリモート参加した担任の先生とともに公演を振り返り、様々な気づきを交換し合い、一人一人が次の公演にむけての課題を明確にすることができました。授業研究会もリモートで実施。先生方は小グループで1時間の子どもの様子を語り合い、子どもたちの成長と先生の指導のよさを確認しあう、温かい研究会となりました。「授業研究の目的は、子どもの見方を交換し、互いの子ども観を深め合うこと」が学校みんなで共有されているからこそ、実現した「リモート研究授業」でした。



子どもの“学びデザイン力”を育てる！ 筑摩小学校 11/10

6年生では、1・2組が合同で、算数「場合を順序よく整理して（9時間）」と社会「江戸幕府と政治の安定（6時間）・町人文化と新しい学問（5時間）」の計20時間を自由進度学習として位置付け取り組みました。「鎖国のメリットは何だ？」とつぶやきながらタブレット端末に向かい黙々と調べる子。「日本独特の文化を守り、外国の思想が入ってこないのが支配しやすい政治体制だったと書いてあるけど、どういうことなのかな？」と友と相談しながら追究していく子。学習の成果を担任の所に行き発表する子。一人一人が自分のペースで学びを進めていく充実した時間となりました。

5年生は、理科「電じ石のはたらき」を自由進度学習で学んでいます。この時間は前時に製作した2種類のコイルに電流を通し、「電じ石を強くする方法」を一人一人が実験を通して追究していきました。

コイルの巻き数や電池の数を増やすと、つくクリップの数が増えることから「電じ石の巻き数や電池の数をふやすと、クリップのつく数が多くなり、電じ石が強くなるのが分かった」など、自分の言葉で実験の成果をまとめていました。



5年生、6年生ともに、自分のペース・方法で課題を追究していく子どもの姿から、筑摩小学校が目指す“学びデザイン力”が確かに醸成されつつあることを実感する時間となりました。